

開成の杜

第78号 ●2008年12月16日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所/学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人/学園長 関口富左



陽光がやわらかい大学の中庭と耐震化で美しくなった高校校舎の一部(左下)

(撮影 山口裕生)

”振り返り、思い見る“



学園長 関口富左

秋は殊の外、周田自然が多彩で美しい!!

近隣の森といい、また、この教育の場といい、多種、多彩、勤学の敷地として美しい、静寂、そして多様である。

改めて、本学創立時から今日迄、六十余年に至ることは、大いなる恵みというか、協力というか、深謝の憶いに在る。神社の神苑を通して、東に国道、西に遠い山並み。南、北にいささかの街々。神社の杜は正に騒音を打ち消して、学園環境を守護しているかの如く在ることは、正に天与の賜と謝志の念が深い。

かつて、戦時中はこの地が畑や田んぼであった折は、時には勤務校の生徒を引き連れて、田植え、田の草取り、稲刈りと、生徒引率により、いわゆる「勤労奉仕」を幾度も実施し、奉仕農家から生徒と共に「おむすび」を頂いたこともあった。戦後、時代は大きく変わり、

本学創立時に学園敷地として……今日に至っている。

思えば世界は、社会は、その時に応じ変転することをつくづく知り、目的とその行為による事実を歴然と知るのである。

学園創立六十二年の今日、私は種々の経過を基に、現状の学園に到ることを、感謝をもって今を迎えている。

大学・短大・高校・幼稚園と、時に応じての教育機関を設立し、今に在り、卒えた人、院生・大学生・短大生・高校生、そして幼稚園児と、卒業生総数五万六千二百七十一名(在学者数二千二百二十六名)。各地、各様に在って成果を挙げていると聴く。「うべなるかな」。先日、五十二年前の卒業生二十三名の来学を受けた。七十を過ぎた名流婦人達!!

神社の杜は、今日も静かに青空と囁いている。ここ学園で、学生・生徒・園児達は、若い美しさを発揮して、成長・充実への道を歩んでいる。

“かんしゃ”感謝あるのみである。

(H 20・11・21記)

大学院で学位記授与 家政学博士二名誕生



家政学博士の学位記を受ける二人

大学院は平成四年人間生活学専攻(修士課程)を開設。平成八年には、家政学を究める博士(後期)課程を設置した。「人間守護」の家政学博士はこれまでに六名誕生している。本年はさらに二名が論文審査にパスし、博士号授与となった。

授与式は九月三十日、創学館で行われた。関口富左学長が會田久仁子さんと金子依里香さんに学位記を授与した。

會田さんは本短大家政科食物栄養専攻の准教授。金子さんは同科助手を務めている。

會田久仁子さんの論文は、人間生活と発酵食品との関わりについて

遠藤由美子さん(短大卒) 福島県教育委員に就任

大沼郡三島町に住む奥会津書房代表で本短期大学部生活芸術科昭和四十三年卒業の遠藤由美子さん(五九)が県教育委員に就任した。任期は四年。九月十日佐藤雄平県知事から辞命を受けた遠藤さんは「子どもたちが幸せでありますように。健やかに学べますように。」



遠藤由美子さん
と就任の抱負を語った。

て考察した「伝統発酵食品に関する食文化的、食品衛生学のおよび微生物学的研究」。

本論文は人間守護の理念を求め、伝統的な発酵食品について調査し、人間生活との関わりを総合的に考察したものである。第一章から第十章までである内容は、日本の味噌、しょうゆ、かぶら寿司、ニシンの山椒漬、紅葉漬、韓国味噌、東南アジアの魚醤油などの製法、遊離アミノ酸等の成分、微生物を検証している。結果、①民族の風土に合った発酵食品は人々の生活に密着した欠かさない存在である。②主たる呈味成分はグルタミン酸であったが、血圧降下作用等の機能性をもったγアミノ酪酸が多量に検出されたものもみられた。③魚を原料とした発酵食品は血中コレステロールを低下させるEPA、DHAが多く、健康上望ましい。以上のことから伝統発酵食品は人間生活と極めて関わりが深く、健



會田久仁子さん

「再考:料理と健康 — 食物の摂取方法の再検討と新しい抗酸化食品の探索 —」

金子依里香 本論文は、高齢社会を迎えて重要性が増している生活習慣病、なかでも糖尿病を防止、その障害を緩和することを目的とし、食生活の見直しをするに必要な知見を得るための検討を行ったものである。結果①食後の高血糖を防ぐ食品の選択、組合せと調理法。炭水化物性食品を単独で食した場合に血糖値が著しく上昇するのに対し、たんぱく質性または、脂質性食品を組み合わせると血糖値を低く抑

えられることを見出した。同時に調理法の選択も重要なことを明らかにした。②高血糖に起因する慢性的な生体障害性の発生への活性酸素の関与。この研究ではウミホタルシフェリンの誘導体と単一光子計測装置を使用し、高感度で選択的な測定系を開発した。これにより微量で短寿命のスーパージオキシドの直接補足を可能とし、体内に見られる濃度のグルコースから生成されるスーパージオキシドを捉えることに成功した。この結果はBioscience, Biotechnologyとの関連において意義深い。③スーパージオキシド定量化法を応用して、高血糖に付随する活性酸素障害を防止するための抗酸化性食材のスクリーニングを行い、各種食材の抗酸化効果を調べた。研究の成果は糖尿病を食生活の見直しにより防ぐ上で価値ある結果を含んでおり、人間守護の観点からも博士論文にふさわしい内容である。



金子依里香さん

平成二十年度第二回教養講座 「小杉小二郎の世界」

講師：豊橋市美術館 館長 金原宏行氏

第百六十二回芸術鑑賞講座「小杉小二郎の世界展」に関連して、開催初日の九月二十九日午後、大・短大生を対象に金原宏行氏から日本の近代洋画と小杉小二郎の



金原宏行氏
常葉学園大 学教授でもある金原氏は、

「再考:料理と健康 — 食物の摂取方法の再検討と新しい抗酸化食品の探索 —」

はじめに、小杉画伯が一年の半分を過ごしているパリの風景をスライドで見せながら、画家が好んだ芸術の都の環境を理解した上で本題に入った。

小杉氏は大学を出たあと建築デザインナーとなったが物足りず、たまたま見た中川一政の絵画に感動し、弟子入りした。そして、二十六歳の年に中川一政に随行してフランスに渡り、ピカソ、モネ、セザンヌを研究した。

さらに、長谷川潔、岡鹿之助、レオナルド・フジタらと知遇を得、それらの感性を取り入れ、消化し

平成二十一年度入学者選抜始まる

来春入学する大学生と短期大学部の選抜が始まった。八月二十五日のI期受付のAO選抜からスタートしたが、十月二十五日に行った面接でII期までの選抜を終えている。合格通知を出している者へは、入学するまでの課題としてレポート提出を求めている。

附属高校生による高大連携選抜は十月三十一日に実施された。

特待生、指定校推薦生、公募推薦生I期、特別生I期の選抜は十一月一日と二日の二日間にまたがる選抜となった。大学志願が増えた反面、短大志願が若干減少した。

選抜は面接と小論文、それに調査書が採点の対象となるが、小論文

文と調査書が百点満点に対し、面接が二百点と重要視されている。

公募推薦生II期、特別生II期の選抜は十二月六日にそれぞれ行われた。この後、一般生I期が年明けの一月七日から願書の受付を開始して一月二十八日に締め切る。

選抜日は短大が二月二日、大学が二月三日。続く一般生II期は二月十三日より受け付ける。

並行して大学院、大学三年編入、短期大学部専攻科の選抜も行う。大学三年編入は、人間生活学科と食物栄養学科で各々十名。専攻科では二十名を募集している。

問合せは入学生務部が受け付けている。

平成二十年度 高原学校(大学・短大)裏磐梯の自然の中で人間性の涵養を図る

大学三年生と来春卒業する短大二年生が残された学生生活をより充実させるために研修する高原学校が本年度も裏磐梯ロイヤルホテルで開催された。

十月七日から十日までの四日間、五百六十五名が参加した。

開講式では、副学長の山田幸二教授が「社会に向けて」と題して講話した。

この中で山田副学長は「少子高齢が進み人生八十年の長寿社会、先行き不透明な時代となった。今後健康で豊かな生活を営むためには、精神的疲労・生活習慣病を解消し、おもしろい等の豊かな人間性を形成しつつ健全な習慣を維持していかなければならない」と述べた。そして、本学が進める教育は建学の精神である「尊敬・責任・自由」が基本であり、時代や人が変わっても踏襲されると述べた。

さらに、人間守護の家政学を学んでいる皆さんは、「個の確立と他との協調」をもって人のため、社会に貢献できる力を養い、もっと温もりのある人間社会を築いてほしいと更なる人間形成に望みを託した。



テーブルマナーも社会に出てからの大事な知識

災害に強い 安心、安全な学園 耐震補強工事全十四棟完了

全国各地で巨大地震等による大規模災害がシミュレーションされ注意喚起が呼びかけられているが、本学園では安全な施設づくりをいち早く取り組み、校舎等の耐震補強工事のほかライブラインの確保にも対応した。



美しく改築された高校特別教室舎棟

開成および教職員を災害発生時に守るべく、安心、安全な施設づくりに取り組んできた。

耐震補強工事

管財部によると、平成十五年度より六ヶ年計画で始めた校舎、体育館、図書館及び寄宿舎の耐震補強工事は、六年間で全十四棟を改修(面積29,470㎡)し、耐震化100%を達成した。

その耐震補強工事は、粘弾性ダンパー工法によるもので、粘弾性体六層を鋼板の間に交互に挟み込み、ブレース形状で取り付けた。地震発生時には鋼板が相互にずれずれて地震エネルギーを吸収する仕組みで地震エネルギーを吸収する仕組み

全国大会で銅賞

本校音楽部 全日本合唱コンクールで受賞

第六十一回全日本合唱コンクール全国大会が香川県高松市で開催され、高校A部門に東北代表として出場した本校音楽部が銅賞を受賞した。

課題曲「巨船」自由曲「明日香皇女への挽歌」を透明な声と深みのある表現で歌い上げ、日頃の成果をみごとに示した。

当日の出演順が一番であったため東北大会以後連日早起きを励行し、出演時間の午前十時十分に合わせて練習を重ねた生徒たち。大会当日は早朝三時三十分起床。運動の



少人数ながら堂々の演奏で銅賞を獲った(写真提供:福島民報社)

あと最後の発声練習をすませ会場入りした。客席には当日券を求めて早朝から並んだ保護者の姿もあり、県大会、東北大会、全国大会へと難関をくぐり抜けてきたメンバーを激励した。

三年生は三年連続の全国大会出場となったが、

「自立」「日々向上」をモットーに自信をもって演奏結果に十分な成果がみられ、満足感でいっぱいだった。

情であった。

第二回体験入学会

— 高校 —

平成二十年度第二回体験入学会が十月二十六日、中学生と保護者百二十八名を迎えて開かれた。

開成校長の挨拶に続き、安齋副校長が本校の特色、高校生活、

入学者選考について説明した。体験会は国語、英語、音楽、食物の教科と部活動で実施した。参加中学生は真剣な眼差しで、教師の言葉に耳を傾け、高等学校の雰囲気浸っていた。

最後に音楽科とマーケティングバンド部によるミニコンサートを鑑賞し、郡山市立緑ヶ丘中学校の荒川郁恵さんが感想を述べ閉会した。

みの制震工法で、これにより約六十%低減させることができる。ライブラインの確保
耐震補強工事と並行して取り組んだのが、災害時に帰宅不能となった学生、生徒、教職員の生活支援および地域住民受入れのためのライブライン(電気、ガス、水道)の確保である。
電力供給が止まった場合、直ちに自前の非常用発電装置(二基)に切り替え、学内主要校舎等へ供給できる。

本校では10月中旬、第2学年の修学旅行(4泊5日)を実施した。台湾、沖縄、関西とコースは違っても学ぶ心はひとつ。体験を糧として一回り大きくなったようだ。

特集

学びの旅

附属高校修学旅行



国会議事堂の前で



私たちと舞妓さんは別じま



マリンスポーツ実習中 ドラゴンボートに乗って



平和記念公園にて千羽鶴奉納

●命の尊さと自然

私たちのコースは日本で唯一の亜熱帯県「美ら海」沖縄へ行ってきました。マングローブの森と美しい海、そして独自の歴史と文化が息づく美しい島でした。サンゴ礁の海をはじめ亜熱帯の原生林など、日本本土にはない風景を楽しむことができました。しかし、沖

縄は美しいだけでなく、太平洋戦争で国内唯一住民を巻き込んだ地上戦があり、尊い命が奪われていったという、悲しく辛い歴史を背負ってきた島であることを平和学習を通じて実感しました。命の尊さと自然の偉大さを学ぶことができ大満足の五日間でした。(普通科総合学習会コース 久保木優)

●美ら海の自然と平和学習

私たちスポーツ健康系コースは、沖縄のエメラルドグリーン色の海で実習を行いました。シュノーケリングで今まで見たこともなかったような美しい世界を体験し、この美しい海を未来に残さなければならぬと強く感じました。平和学習では、沖縄戦のビデオ

を見たり、体験者の話をお聞きしたりと、戦争の悲惨さを深く学ぶことができました。生々しい話に心が痛くなりました。今こうして平和に過ごせることを幸福に感じるとともに、平和の礎となつてくださった方々への感謝を忘れないようにしたいと思います。(普通科スポーツ健康系コース 黒田美来)

●日本の文化にふれる旅

私たち人文系コース、音楽科は広島、関西方面へ行ってきました。日本の歴史や文化を直接肌で感じ、平和の尊さを知るとも貴重な充実した五日間となりました。広島では原爆ドームを見学し、被害者の方の講話をお聞きし、とても胸が痛みました。そして、こ

の世界から戦争がなくなつてほしいと心から思いました。京都の宿舎での舞妓鑑賞。何と私たちが同じ十七歳と聞いて、一同驚きの声。伝統文化を担っているという強いつながりが感じられ、大変刺激を受けた旅行となりました。(普通科人文系コース 今泉礼子)

●美と食の宝庫—台湾

私たち、食物科と美術科は、台湾で学びました。食物科は台湾料理を実習し、石鍋料理、広東料理、海鮮料理、四川料理と何十種類もの料理を口にしました。美術科は、中国五千年の歴史の中で皇帝たちが残した至宝を集めた故宮博物院を巡り、また、たくさんスケッチ

をしました。四泊五日の短い時間でしたが、異国の文化に直接触れ、さまざまなものを吸収し、充実した旅となりました。台湾で心も体もひとまわり大きく成長した私たち。この旅をこれからの人生に役立てていきたいと思えます。(食物科 平野和佳奈)

大学院・大学

人間守護の理念を基としてよりよい研究と実践との成果を分かち合う



食と健康を示した研究発表を見入る見学者

【大学院・人間生活学研究所】

「福島県内各地に存在する独自の食文化・伝統食品を考察した。」

【家政学部・人間生活学科】

統一テーマ「生活の自立について考える」。☆生活総合コース(生活経営領域)「食生活からみた家庭生活の自立」☆衣生活領域「衣服の持つ機能性」☆福祉コース「高齢者の自立支援」☆建築デザインコース「自給率十八%の国産木材での自立」を考察した。



衣類の機能性を紹介する学生

【家政学部・食物栄養学科】

「自分の健康に気をつけていますか」をテーマに、失われつつある健全な食生活について、食の重要性を追求した。



データを示しながら食の重要性を説明

【レストランもみじ】

食物栄養学科と短大食物栄養専攻が合同で開催。



調理実習、南信越食実習の成果を披露

短期大学部

【家政科福祉情報専攻】

「新しい家庭生活をめざして」をテーマに、手芸、染色、パソコンの実技講習を行い、手作り菓子や手芸小物を販売した。



新編実技講習が人気

【家政科食物栄養専攻】

「健康と食を考える」をテーマに、食育に取り組んだほか、もみじ食堂の運営に当たった。



小劇場スタイルで実演活動

【幼児教育学科】

「手をつなぎ 笑顔届け2008」をテーマに、素敵な夢をもてる社会をめざしての熱い思いを発信。



学生の傑作を見学する来賓者

【生活芸術科】

グラフィックデザイン、絵画、彫刻、工芸、コンピュータグラフィックス、近代詩文書、茶道(略登点)等九部門で作品発表。



ポスターA 生活芸術科2年 相楽 真澄さん



ポスターB 生活芸術科2年 池田 麗子さん



ポスターC 生活芸術科2年 鈴木 麗子さん

【今年のポスターは三点が採用された。】

【婦人会会長招待】

婦人会会長をご招待して、もみじ会を見学していただいた。



歴上室での応接に異味津々

【高齢者招待会】

ケアハウスで暮らす高齢者を案内、交流を深める。



高齢者と記念写真

【文化学科】

テーマは「動物の文化」。動物を人間がどのように文化的に意味付けたかを考察した。



人間と動物の関係をパネルに

【音楽科】

「もみじ 会演奏会」は、すべて学生による運営。ピアノ、独唱、管楽器の演奏が行われた。



開成の社女声合唱団は東北大会受賞の実力を誇る

【学友会本部】

ジャズ研究、ダンス、水泳、タッチフットボール、スポーツ栄養研究、女性史研究のクラブと同好会が活動の発表・展示を行った。



歴上室演習でのいも餅り体験

【茶道クラブ】

慎思庵にて六茶席。お点前披露。



一期一会

【食品化学研究クラブ】

「油を知る」をテーマに、料理をおいしくする「油」をさまざまな角度から掘り下げた。



油の活用を試食で紹介

【フォークソング&モダンジャズ研究同好会】

合同企画によるジャムセッション。



様々な演奏スタイルを披露

【食生活・栄養研究所(共催)】

乳幼児から高齢者に至るステージ別の食生活を管理栄養士が指導。



具体的なメニューで栄養バランスを考える

【附属幼稚園】

「ほくたち、わたしたちの作品展」日頃のお遊びの中で描いた作品や工夫しながら制作した物を展示。



携帯で写メールする家族

【子どもたちのプレゼント】



なかよし広場でのバザー 父母の作品が並ぶ

附属高等学校

教科や学年組展、生徒会(部活動)の三十四パートで成果発表を行った。



注文をさぐく生徒たち

【食物料】

どんぐり食堂を開校。調理実習の成果を示した食事は今年も好評。



注文をさぐく生徒たち

【美術科】

授業の課題作品の展示発表。



白開廊に身内を飾る事案

【第三学年六組】

「体統10歳〜100歳」生活総合系の教育内容を発表。



保育について学ぶ

【生徒会】

十七部が活動の成果を発表、練習風景を公開した。



真列席員に緊張が走る

【百人一首カルタ取り大会】

十二回目となる学年別クラス対抗戦。優勝は一年五組、二年六組、三年音楽組。



真列席員に緊張が走る

【生徒会・バスケットボール部】

第二十五回附属高等学校校長杯大会。優勝は白河中央中学校。



招待試合で涙を流す

【生徒会・マーチングバンド部】

マーチングの美しい動作や楽しさが魅了する団体演奏。



会場に広がる優雅な演奏

【生徒会・新体操部】

美の表現を追求する。



華麗に飛ぶ

【生徒会・卓球部】

喜多方商業高校を招待しての学校対抗試合。



お互いに技を磨く

【同窓会(共催)】

大学・短大・高校の三同窓会が合同で在校生との交流を図る広場を開校。



同窓会所設立のためのバザー

【生徒会・科学部】

楽しい科学を体験する。



理科の展示発表

【生徒会・書道部、芸術科(書道)】

授業での作品と部活動の作品を展示してその違いを見る。



賞も帯を巻いてトライ

【生徒会・茶道部】

薄茶平手前の披露。



立ち姿も輝いて美しく

【附属幼稚園】

「ほくたち、わたしたちの作品展」日頃のお遊びの中で描いた作品や工夫しながら制作した物を展示。



携帯で写メールする家族

【子どもたちのプレゼント】



なかよし広場でのバザー 父母の作品が並ぶ

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム

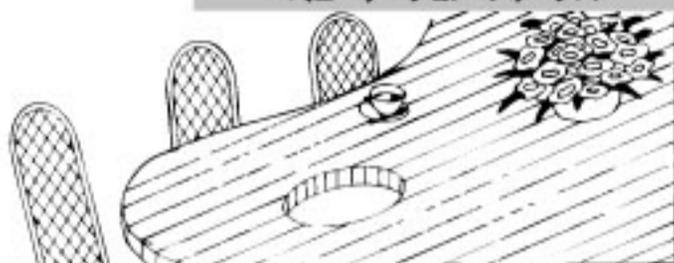


イラスト 安藤 文明

真の耐震化100%を目指して

緑川 洋一

平成二十年十一月十六日、家庭寮二号館の引越しが無事終わり、学園建物の耐震化が100%達成されました。身体中に達成感と安堵感が溢れていく心地好い余韻に浸っています。

本耐震工事は大地震発生時に、学生、生徒、園児、教職員の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開等を目的に、新耐震基準施行(昭和五十六年)以前に建築された校舎等十二棟の耐震診断を行い、危険度の高い建物から耐震補強六ヶ年計画により順次施工されました。

思い出深い出来事として、十トントラック十台分の実験、実習用

什器備品等機材の引越しに悪戦苦闘した家政学館や年間四棟(本館、芸術館、高校校舎、幼稚園園舎)を施工したことなど、つい昨日のように浮かんできます。

本プロジェクト達成の陰には、管財部員の一致協力は勿論のこと、教職員を始め、学生、生徒の皆様のご支援とご協力があったことを、改めて本紙上をお借りして御礼申し上げます。また、現在文部科学省の「学校施設の防災機能強化推進モデル事業」に採択され、ソフト面(防災マニュアル作成、防災教育の充実、地域防災の強化等)にも取り組んでおり、ハード、ソフト両面の真の耐震100%を目指し、



生涯に愛わった高校校舎

(管財部長)

私を支える言葉

齋藤 綾香



齋藤

私が十八年間住み慣れた秋田の地を離れて郡山で過ごした生活は二年の月日が経とうとしており、卒業という二文字が頭の中で渦を巻いています。同時に、一つの言葉を胸に生活してきた私は、心身に大きく成長できたように感じています。

その言葉というのは、先日マラソン選手を引退した高橋尚子さん

がある著書の中に書かれた「何も咲かない寒い間は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く」という言葉です。私は、高校の三年間陸上競技部に所属し長距離選手として活動しました。つらく苦しい練習の時や、思うような記録が出ずに悩んだ時も「今は下へ下へと根を伸ばす時」と前向きに努力するきっかけとなりました。

もみじ会の「レストランもみじ」で勤務を務めた際にもこの言葉は私を支えてくれました。毎日の補講に加え、試験や学外実習の準備で忙しい時期でしたが、この言葉を心に「皆で大きな花を咲かせたい」という気持ちで頑張りました。

大きな花を咲かせるためには、それを支える根の部分が強く太くなければなりません。私は短大卒業後に本学食物栄養学科に進学しますが、将来さらに大きな花を咲かせるため、これからもこの言葉を支えに努力したいと思っています。(短期大学部家政科食物栄養専攻二年)

食物科で学ぶ喜び

早坂 美香



早坂

私が本校の食物科を志願した一番の理由は、私の母も本校の食物科卒業生だからです。また、食物科のことをいろいろな形で調べ、卒業と同時に調理師免許も取得ができ、将来に役立つと思い本校を志願しました。

入学し、早半年が過ぎ授業の方では、調理師免許を取得するための専門的な知識や調理実習を通して調理技術を学んでいます。先日の実習

では、もみじ会で販売するための手作りクッキーを作り、またシュークリームや手作りこんにやくなどを作りました。時には失敗する時もありますが、実習の時は班員の三人と協力するので実習はとても楽しいです。これからも上級学年になるたびに授業の内容もレベルアップしますが、日々努力して、食物科の先生方にたくさん知識と技術を教えていただきながら学んでいきたいと思っています。

また、十二月十三日(土)に第九回シーフード料理コンクール全国大会の「プロを目指す学生」の部、十名に選出され大会に臨みます。作品名は「鯛のミートグラタン」です。炒めた玉葱の上にカレー味の鯛をのせ、ミートソースをかけオープンで焼いた料理です。体によいとされる赤身の魚を使いました。初めての全国大会出場で緊張していますが、附属高校の代表として頑張りたいです。(附属高等学校食物科一年)

私の本棚

アンリ・トロワイヤ著

『ユーリーとソーニヤ』

山盛百合子訳 福音館書店

郡山女子大学短期大学部音楽科

中川 英子

「ロシア革命」。二十世紀初頭に起きたこの革命について、歴史の授業では、さらにと駆け抜けた印象をもつのは、私だけでしょうか。

革命の中で、の副題通り、思春期の主人公ユーリーとその一家(ロシア帝国の裕福階級)のバリへの逃避行の物語である。疾風怒濤の日々、読者をスリルの渦に巻き込み、頁を捲る

赤ちゃんは泣くのが仕事、と昔の人はよくいっていたのですが、赤ちゃんはん高く泣いたり、しばらく泣き続けることがあります。その声にびっくりにして、いてもたってもいられなくなり、なんとかして泣きやませよう、あれやこれや涙ぐましいほどの努力と工夫をしている親子を見かけます。

赤ちゃんが生まれたときに泣く声は産声と言いますが、とにかく、赤ちゃんは一生涯懸命に泣き、周囲とのコミュニケーションを築ろうとしているのです。

生活診断室

シリーズ④

赤ちゃんの泣き声

一愛をもって耳を傾ける

郡山女子大学短期大学部

准教授 滝田 良子

赤ちゃんのコミュニケーション能力の基礎

赤ちゃんが泣く理由には、おおむね次の三つの意味があるとされています。一つ目は食欲などの生理的要求、二つ目は危険や苦痛を感じたとき、そして三つ目は情緒的な恐れや不安によるものです。

これらの理由によって泣き声をあげ、その人格形成におおいに影響することになるのです。もし、街中で赤ちゃんの泣き声が聞こえたときには、それが何を要求しているのか、耳を傾けてみてはいかがでしょうか。きっと、赤ちゃんから微笑みのメッセージが返ってくると思いますよ。

ける赤ちゃんに対し、親がきちんと対応してあげることが、大人との信頼関係を育てると言われます。「訴えれば自分の世話をしてくれる」と言う体験を重ねることで、大人との「愛着」が生まれるのです。

反対に、泣いても放置されると人間との関係構築がうまくいかず、周囲へ興味を向けようとする探究心が薄れてしまったり言われていきます。つまり、大人が赤ちゃんの泣き声をきちんと受け止めてあげることが、赤ちゃんのコミュニケーション能力の基礎を培い、その人格形成におおいに影響することになるのです。もし、街中で赤ちゃんの泣き声が聞こえたときには、それが何を要求しているのか、耳を傾けてみてはいかがでしょうか。きっと、赤ちゃんから微笑みのメッセージが返ってくると思いますよ。

手ももどかしい程。先の大戦での外地からの帰還した人々の体験談にも重なり、胸が締めつけられる。

作者トロワイヤは、一九一一年、モスクワに生まれ、革命によりパリに逃れ、その後作家として、アカデミー・フランセーズの会員となった。この作品は、彼の自伝的小説と言ふ事ができる。又そこに、主人公と一家を支え続ける使用人の娘との甘酸っぱい初恋のドラマが展開する。逃避行を縦糸に、初恋を横糸に織り成す物語は、作者の小説家としての技量に凄みを感じる。歴代皇帝の生涯を扱う大作は既に翻訳されているが、この小品は作者が昨年亡くなられたのを期に出版された。この本のもう一つの魅力として忘れられないのは、翻訳文の日本語の美しさにある。幼児教育学科の方は、訳者が、あの「くりとぐら」の挿画家山脇さんと気が付かれたのでは。李枝子・百合子姉妹の絵本は、世界各国語に訳され、あまりにも有名である。

大村家(姉妹旧姓)の末娘と幼児期の遊び友達であった私は、よく家にも出入りをしてきた。絵本にもある蛙の家の台所は、大村家の台所そのもの。家庭で交わされる会話は耳に心地好いものであった。この本の随所に溢れるエレガントな表現は、さうとあの家庭で育まれたものに違いない。二五〇頁に及ぶ本書は、児童書として扱われているが、侮るなかれ、歴史に根ざしたストーリー、洗練された日本語、味わい深い秀作である。

第六十二回学園オリムピック
開成式 雨天で中止

十月一日に予定された第六十二回学園オリムピックは、雨天のためグラウンドでの開成式を中止し、大学と短大が体育館でバレーボールとパン食い競争を行った。
午後から雨が上がり、中庭では応援隊の応援を受け、長なわ対抗戦で汗を流した。



気持ちを一つにして飛び

短大・音楽科が定期演奏会
学習成果を披露

第三十九回定期音楽会は十月二十五日、建学記念講堂大ホールで開催された。全員で合唱とピアノのための組曲「葡萄の歌」から四曲披露したあと、選ばれた六名がモーツァルトやバッハ、プッチーニの名曲を次々に演奏し、美声を響かせた。最後は郡山開成学園オーケストラが演奏し、約五百名の観客が惜しみない拍手を送った。



大規模の学園オーケストラ演奏が観客を魅了した

運動と食生活の大切さを理解
市民フォーラム開催—大学—

日本栄養・食糧学会東北支部会と本学共催の第四回市民フォーラム「健康な生活を送るために」が十一月八日、本学で開催された。

国立健康・栄養研究所田畑泉氏、太田西ノ内病院糖尿病センターの太田節氏、東北大学大学院農学研究所池田部男氏がメタボリックシンドロームの予防と食生活の大切さについて講演した。

おめでとう
コンクール入賞 朗報続々と

開成の杜女声合唱団 銅賞
全日本合唱コンクール東北大会
盛岡市で開催された平成二十年度の全日本合唱コンクール東北大会に出場した開成の杜女声合唱団は、大学の部で銅賞を獲得した。

短大・音楽科伊東さん全国大会へ
日本クラシック音楽コンクール

十月四日、三春町で開催された日本クラシック音楽コンクール東北地区福島本選会のピアノ部門で本短大音楽科二年の伊東史恵さんが第一位の優秀賞に選ばれた。確かなテクニックと詩的な演奏が評価され、十二月十六日から全国大会出場が決まった。

毛さん板飛込で全国四位

大学人間生活学科二年の毛文輝さんは、九月に行われた第八十四回日本学生選手権水泳飛込競技大会の3m飛込で四位入賞した。また同三年の三浦薫さんは十六位となり、団体総合では六位だった。

白岩志於美さん(高一)
牛乳製品利用料理コンクール
全国大会で優良賞

第二十九回牛乳製品利用料理コンクール全国大会が十一月九日東京で開催され、本県代表として本校食料科一年白岩志於美さんが出場した。全国九千一百一十作品から各都道府県の子選を通過した四十五名が審査員を前に作品を調理した。

優良賞となった白岩さんの作品は、「モーたっぷり春巻き」。牛乳で茹でたジャガイモやチーズを春巻の皮で包み揚げ、玉葱やしめじを牛乳で煮たホワイトソースをかけ、万能ネギを散らしたアイディア料理が高く評価された。



賞状を手にする白岩さん

熊谷法子さん(短大)
朝ご飯コンテスト全国大会で
特別賞

全国農業協同組合中央会主催の朝ご飯の新メニューコンテスト全国大会へ出場した本短大食物栄養専攻の熊谷法子さんの作品が審査員特別賞に輝いた。千百十三件の応募から受賞したもので、スープにおにぎりを混ぜて食べる手間は「3分30秒、トマトリゾット」が目された。

坂内愛海さん(高三)最優秀賞
高校生読書体験記コンクール

第二十八回全国高校生読書体験記コンクール県選考会が十月十七日福島市で開催された。県内十一の高校から二千九百七十七点の作品が寄せられた。その結果、山口準人著「みゆの足(あんど)ババにあ

ける」の読書感を綴った本校三年坂内愛海さんの「私は鼓から出る」が最優秀賞に選ばれた。同時に全国コンクールに推薦された。
なお、同二年生の秋山綾乃さんは優秀賞に選ばれた。

坂内さんは「著者の山口さんの病気に対する前向きな姿勢に圧倒された。自分も難病をかかえているので、同じ苦しみに耐えている人たちへの励ましになれば……」と感想文への取り組みを語った。

私立高等学校バレーボール
全国大会へ

九月に行われた東北私立高等学校バレーボール選手権大会で、本校バレーボール部は決勝トーナメントに残り、全国大会への切符を手にした。全国大会では常勝の伝統校を相手の戦いになるが、ピンチをチャンスに変える積極的な、伸び伸び高バレーで挑戦したいと全員が練習に励んでいる。

本校弓道部
県高校新人大会で優勝

県高校新人体育大会弓道競技が十一月八日郡山市で開催され、団体戦で本校弓道部が優勝した。また個人戦でも榎林重子さんが優勝。団体戦では第二十七回全国高校弓道選抜大会県大会及び第八回東日本高校弓道大会に出場する。個人戦の榎林さんは東北大会へ出場する。

少年の主張高校の部
上野正子さん(高三)最優秀賞

第三十一回郡山市青少年健全育成推進大会が十一月十五日開催され、席上各種表彰が行われた。
少年の主張高校の部で最優秀賞に選ばれた本校の上野正子さんに賞状が贈られた。また上野さんは会場において、その主張を発表した。

相楽真澄さん(短大)がクラシフィ
第九回デザインコンクール
T O H O K U 2 0 0 8 の審査会が

十一月五日仙台市で開催され、本短大生活芸術科二年相楽真澄さんの作品が最優秀賞に選ばれた。同時に特別賞の中村誠審査委員長賞にも選ばれた。

ほくとわたしの作品展—幼稚園—

本幼稚園の「第十五回ほくとわたしの作品展」が十一月二十六日から六日間、記念講堂ギャラリーで開催され、百五十六点の作品が飾られた。同時に卒園記念の屏風絵三双も披露された。

助け合い募金で二十五万円の善意
—学友会・生徒会—

本学学友会と本校生徒会は助け合い運動の一環として十月から学

内で募金活動を行い二十五万円の浄財を得た。福島民報厚生文化事業団と福島民友愛の事業団へ委託した。

学長を囲んで
短期大学32・6期会

郡山女子短期大学卒業の六期生二十三名が十一月十八日、母校訪問し、その変貌に、浦島太郎の心境と昔を偲んだ。札幌、東京、新潟と各地に在住する卒業生は学長の元氣な姿に感涙し、手を取り合っ

ご冥福をお祈りします

佐原盛雄氏
元郡山女子大学附属高等学校副校長
十一月十一日死去。八十八歳。
吉見和夫氏
元学校法人郡山開成学園管財部長
十一月九日死去。八十歳。

先輩を訪ねて



本田 華奈子さん
●平成16年短期大学音楽科卒業
●アーティスト

本田華奈子さんは、第三十七回全東北民謡選手権大会で、福島県代表として三十五年ぶりに優勝しました。「これまで三回出場しましたが、本大会はレベルが高かったのでなかなか勝つことができません、最後の挑戦のつもりで臨みました」と本田さん。

本校在学中にも第二十五回NHK東北民謡コンクールでシミア大賞を勝ち取るなど数々の民謡大会で栄冠に輝いています。
「幼い頃から母と一緒に毎週伯父が主宰する民謡教室に通い、中学生

時代には合唱部に所属し全国大会にも出場しました。そう思ううちに自分には歌が歌えないと思うようになり、音楽の基本を学ぶために音楽科への進学を決意しました。在学中に、建学記念講堂で民謡を歌ったことが忘れられない思い出のこと。今後は、曲ごとの全国大会にチャレンジしていく予定です。「若い人に民謡の素晴らしさを伝えていきたい」と熱く語る本田さん。「学生時代の夢を夢で終わらせてほしくないですね。夢を消さないで実現することを目標としてほしいです」と後輩の皆さんへアドバイス。

本田さんは、民謡歌手のほかにポップスアーティスト「ナスカ」のボーカルとしても活躍中。今年の十一月十日(土)には、ピラガパレットふくしまで、イベント「エゴナビ2008」の一環としてナスカのライブを行うそうです。ぜひ、どうぞ。

人を愛し 自然を愛し 絵はこころ

第百六十二回芸術鑑賞講座

「小杉小二郎の世界」展

パリ市内のアトリエで創作活動を続ける小杉小二郎氏の絵画展が第百六十二回芸術鑑賞講座として九月二十九日から十月五日まで建学記念講堂ギャラリーで開催された。



小杉小二郎の絵画に鑑賞する学生たち

展示作品は小杉画伯が自ら選んだ油彩九点、ガラス絵四点、コラージュ二点、オブジェ六点、新聞連載小説の挿絵原画二十六点が用意されたが、急遽、個人蔵(県内)の絵画二点、「銀座百点」の表紙原画二十点が追加され充実した展覧会となった。

本展では初の小杉展とあって、初日から愛好者が会場を訪れ、連日県内外の方々が賑わった。

絵は心。人を愛し、自然を愛して創作に励む小杉画伯の世界は、ほのぼのと温かさの中に夢があり、しかも一点一点が奥深く、画面の奥へ吸い込まれる感覚が愛好者の心をとりこにする。学生、生徒も出品リストと照合しながら、じっくりと時間をかけ鑑賞していた。

奏でよう青春 刻もう思い出 描こう未来

もみじ会恒例の本校第三学年のビッグアート。今年は「奏でよう青春 刻もう思い出 描こう未来」を統一テーマに美術科の草野順子さんの図案を二ヶ月を要して、三年生全員二百四十四名の手で仕上げた。高さ四・五m、幅十一mという素晴らしい作品を高校第二体育館に掲げた際は、達成感と喜びで胸がいっぱい。三年生全員が手がけた最高傑作に思わずみんな拍手を送った。

(もみじ会実行委員長 小林冬美)



来賓者の目を奪ったビッグアート

第百六十三回芸術鑑賞講座

わらび座公園「火の鳥」

手塚治虫の世界をミュージカル化

第百六十三回の講座は、秋田から伝統文化を発信し続けている劇団わらび座のミュージカル。手塚治虫の名作「火の鳥」を舞台化し、生命の連鎖をテーマに生きること、死ぬこと、未来への輝きを宗教的哲学をもって奥深く表現した。

盗賊我王と仏師西丸の因縁の対決では、その緊張感に学生・生徒は固唾をのんだ。

ところで、高僧良弁を演じた本間謙章さんは郡山市小原田の出身。関口学園長との面会で母親が学園長に教わったことがあるとの挨拶に「先生冥利につきます」と話題が盛り上がった。



ミカドの前での鬼火昇昇シーン

第百六十四回芸術鑑賞講座

「秋川雅史コンサート」

やさしさを伝えたい

人々にやさしさを伝えたいと前置きして歌い始めた「千の風になつて」。無声音で口ずさむ学生、生徒。十一月十三日、第百六十四回を迎えた芸術鑑賞講座はテノール歌手「秋川雅史コンサート」。歌と語りを交えての六十分間はここ

休まる楽しいひと時となった。音楽に賭けた生い立ちと成功するまでのあきらめないという精神は学生、生徒の心に応援、激励のメッセージとして残った。ピアノは小島さやかさん。確かな演奏で秋川氏を支えた。



学生、生徒の心を震えた秋川雅史コンサート

本学所蔵 紙上美術展 57

瓶花 (限定石版画)

小倉 遊亀



平成十二年、東京の病院で死去。百五歳。生涯を通じて人間や花など身近なものに題材を求めた。小倉氏の秀作は、平成十五年九月の第百四十回芸術鑑賞講座「小倉遊亀展」として絵画十八点と挿絵画を紹介した。さらに、平成十七年十月の第百四十八回芸術鑑賞講座「それぞれの美への憧れ 女流画家五人展」でも小倉コーナリーにて九作品を展示した。そのご縁で小倉家から寄贈されたのが「瓶花」。一九五七年頃の作品とみられる。小倉氏は本学園にとって馴染みの深い画家である。

木もれ陽

一年の内での此の時期は今年の収穫と翌年の備えの時、学園にとって「もみじ会」を筆頭とする収穫と「入学試験」を中心とする備えの期間である。そのような張りつめた学園の中での教養講座や芸術鑑賞講座は、深遠茫漠な日々の下で気宇壮大な世界に身を委ねて息の抜ける一瞬である。

宮沢賢治の教養と芸術の中に、日々のあまりの苦難さに掛けそうになっている農民青年を励ます詩がある。一九二七年、賢治三十一歳、一〇八二番目の作品である。その冒頭部分はこうである。

あすこの田はねえ／あの品種では少し粟葉が多過ぎるから／もうきつぱりと水を切つてね／三番除草はやるんだ……車をおしながら／遠くからわたしを見て／走って汗をふいてある……それからもしもこの天候が／これから五日続いたら／あ

の枝垂れ葉をねえ／斯ういふふうな枝垂れ葉をねえ／むしつてつてしまふんだ……汗を拭く／青田のなかでせわしく顔の汗を拭くそのこと……それから、い、かい／今月末にあの稲が君の胸より延びたらねえ／ちやうどシャツツの上のボタンを定規にしてねえ／粟尖を刈つてしまふんだ……泣いてゐるのか／涙を拭いてゐるのだな……(略)

賢治は、三十歳半ばで病に斃れるまで人々を励まし人々の幸せを祈った。ピカソやシャガールは九十歳を越えても依然然絵筆を握っていたが、彼らの教養と芸術もまた掛けそうになる私たちを奮い立たせてくれる。そのような教養や芸術を内に取り入れる「教育」こそは、若者たちを励まし奮い立たせて止まぬ百年の計の営為には他ならない。教育者でもあった賢治のこの詩の結びはこういうものである。

雲からも風からも／透明なエネルギーが／そのことにそ、ぎくだれ

(均)